

第 2 編 水 道

第 1 章 沿 革

1. 枚方市の沿革
2. 水道事業のあゆみ
3. 水利権の取得に関する経緯
4. 拡張事業の経緯
 - (1) 創設事業
 - (2) 第1次拡張事業
 - (3) 第2次拡張事業
 - (4) 第3次拡張事業
 - (5) 第4次拡張事業
 - (6) 第5次拡張事業
 - (7) 第6次拡張事業
 - (8) 第7次拡張事業
5. 送水ルートのパックアップ機能の強化
6. 春日受水場更新工事
7. 施設改良工事
8. 鉛管改良工事
9. 異形管改良工事

1. 枚方市の沿革

枚方市は、大阪府の東北部にあつて、京都府・奈良県と隣接する位置にあります。人口は約41万人、面積は65.08㎏です。市域の大部分は生駒山地から張り出した枚方台地からなり、古くから人が住みつき、淀川の流れとともに栄えてきました。

枚方（ひらかた）の地名は、古代日本語で「崖の上」を意味し、淀川に突き出た万年寺山の地形を表現したとする考え方もあります。

2. 水道事業のあゆみ

昭和初期の飲料水は井戸水によって賄われていましたが、水質不良などの問題が生じて、水道の建設を急ぐこととなりました。

昭和7年から天野川の伏流水を水源とする水道施設の建設に着手し、昭和8年に給水を開始、当時の事業規模は、給水人口1万2,000人、1日最大給水量1,680㎓でした。

その後、多くの町村との合併による行政区域の拡大や急激な人口増加、生活様式の変化などによる水需要の増加に対応するため、数次にわたる拡張事業を行ってきました。それとともに、水道普及率も著しく上昇し、昭和44年には97%に達しました。

また、昭和42年4月から始まった第4次拡張事業によって、念願であった市内全域での給水が実現しました。

第7次拡張事業では、高度浄水施設の完成により平成10年10月から市内全域に高度処理水を通水することができました。さらに、市南部・東部地域の安定給水を図るため、南部地域に香里受水場を、東部地域に氷室低区・高区配水場をそれぞれ建設しました。

現在は、平成25年4月に策定した「枚方市上下水道ビジョン」に定めた、水道事業運営の理念と基本的方向に基づき、効果的・効率的に水道施設の更新・改良に取り組んでいます。

3. 水利権の取得に関する経緯

水源を確保するための水利権の取得は、昭和22年に近畿財務局より引き継いだ毎秒0.25㎓に始まり、その後淀川水系の水資源の開発により現在では毎秒1.505㎓の水利権を取得しています。

取得区分	毎秒 (㎓)	一日 (㎓)	取得年度	備考
河水統制配分前	0.250	21,600	S. 22	近畿財務局
河水統制配分量	0.080	6,912	32	
淀川大堰 (旧長柄可動堰改築)	0.110	9,504	41	(水資源機構)
高山ダム	0.112	9,677	49	〃
青蓮寺ダム	0.051	4,406	49	〃
正蓮寺川利水	0.109	9,418	49	〃
琵琶湖総合開発	0.793	68,515	H. 4	〃
合計	1.505	130,032		

4. 拡張事業の経緯

(1) 創設事業

計 画 期 間	昭和7年10月～昭和9年2月(1年5ヵ月)
通 水 開 始 年 月 日	昭和8年8月
計 画 給 水 区 域	旧枚方町全域、蹉跎村の一部
計 画 給 水 人 口	12,000人
計 画 1 人 1 日 最 大 給 水 量	140ℓ /人/日
計 画 1 日 最 大 給 水 量	1680 ^m /日
総 事 業 費	223千円
水 源 の 種 類	浅井戸(天野川の伏流水)
<p>昭和7年の旧枚方町時に水道行政を発足させ、直ちに創設工事を起工しました。 天野川左岸に岡新町浄水場を建設し、口径800mm多孔集水管で天野川の伏流水を引き、10馬力の取水ポンプで取水井より原水を取り入れていました。</p> <p>主たる施設</p> <p>岡新町浄水場 公舎、取水井2、ポンプ室。口径200mm配水管により、各家庭に給水しながら、伊加賀低区配水池に送水。 (中宮浄水場の本格稼働に伴い昭和41年に廃止)</p> <p>伊加賀低区配水池 岡新町浄水場より約47m高所に位置し、縦横 12.42m、有効水深3m、貯水量463^mの貯水池2池を有していました。そして加圧ポンプ室から口径75mm送水管により鷹塚山高区配水池に送水していました。</p> <p>鷹塚山高区配水池 伊加賀低区配水池より約25m高所に位置し、内径6m、有効水深3m、貯水量83^mの貯水池を有し、高台に給水していました。なお、昭和43年の新配水池築造に伴い廃止しました。</p> <p>創設事業の増設工事</p> <p>着 工 年 月 昭和12年8月 竣 工 年 月 昭和13年3月 総 工 事 費 16千円</p> <p>本市水源は、天野川の伏流水を引用していましたが、その後の鉄分の増加などによる水質の悪化に伴い、曝気、沈殿、急速ろ過等の浄化装置を、岡新町浄水場内に増設しました。</p>	

(2) 第1次拡張事業

計 画 期 間	昭和23年4月～昭和28年3月(5ヵ年)
通 水 開 始 年 月 日	昭和30年4月
計 画 給 水 区 域	旧枚方市内全域(一部を除く)
計 画 給 水 人 口	24,000人
計 画 1 人 1 日 最 大 給 水 量	150ℓ /人/日
計 画 1 日 最 大 給 水 量	3,600m ³ /日
総 事 業 費	32,000千円
水 源 の 種 類	浅井戸(天野川の伏流水)、淀川表流水
<p>昭和13年11月、隣接町村(殿山町、山田村、川越村、樟葉村、蹉跎村)を合併して新枚方町となり、昭和22年8月1日に市制を施行しました。商業の発展や自然増などの人口増加によって、従来の岡新町浄水場の能力では水需要に対処できなくなり、昭和23年に拡張事業の第一歩を踏み出すことになりました。</p>	

(3) 第2次拡張事業

計 画 期 間	昭和30年～昭和35年3月(5ヵ年)								
通 水 開 始 年 月 日	昭和32年5月(一部)								
計 画 給 水 区 域	東部を除く枚方市内全域								
計 画 給 水 人 口	95,000人								
計 画 1 人 1 日 最 大 給 水 量	2000 /人/日								
計 画 1 日 最 大 給 水 量	19,000 m ³ /日								
総 事 業 費	436,000千円								
水 源 の 種 類	淀川表流水、浅井戸(天野川の伏流水)								
<p>昭和30年ごろには全市の約55%の給水を行っていましたが、年々増加する人口及び普及率の増加に伴って、給水人口45,000人、給水量1日9,900m³、工業用水5,000m³をもって5ヵ年継続事業による拡張計画を樹立申請し昭和30年8月10日厚生省の許可を得るに至りました。</p> <p>しかしその後、日本住宅公団が元陸軍施設跡に集合住宅7,100戸(香里6,000戸、中宮1,100戸)の建設を計画し、また津田町との合併(昭和30年10月15日)により、人口が急激に増加したため、拡張計画を給水人口95,000人に変更しました。</p> <p>なお、この時期“簡易水道事業”として、津田、長尾、尊延寺地区にそれぞれ浄水場を設け、地下水をポンプで揚水し除鉄後塩素滅菌を施した上で各地区内に配水していました。</p> <p>主たる施設</p> <table border="0"> <tr> <td>磯 島 取 水 場</td> <td>取水口、吸水井、接合井、砂溜井、導水管口径 500mm</td> </tr> <tr> <td>中 宮 浄 水 場</td> <td>急速ろ過池4池、沈殿池2池、浄水池2池、塩素混和池、送水ポンプ室</td> </tr> <tr> <td>妙 見 山 配 水 池</td> <td>角型配水池(容量 1,000m³1池)</td> </tr> <tr> <td>大 池 配 水 場</td> <td>角型配水池(容量 1,500m³1池)</td> </tr> </table>		磯 島 取 水 場	取水口、吸水井、接合井、砂溜井、導水管口径 500mm	中 宮 浄 水 場	急速ろ過池4池、沈殿池2池、浄水池2池、塩素混和池、送水ポンプ室	妙 見 山 配 水 池	角型配水池(容量 1,000m ³ 1池)	大 池 配 水 場	角型配水池(容量 1,500m ³ 1池)
磯 島 取 水 場	取水口、吸水井、接合井、砂溜井、導水管口径 500mm								
中 宮 浄 水 場	急速ろ過池4池、沈殿池2池、浄水池2池、塩素混和池、送水ポンプ室								
妙 見 山 配 水 池	角型配水池(容量 1,000m ³ 1池)								
大 池 配 水 場	角型配水池(容量 1,500m ³ 1池)								

(4) 第3次拡張事業

計 画 期 間	昭和37年4月～昭和43年3月(6ヵ年)										
通 水 開 始 年 月 日	昭和39年4月(一部)										
計 画 給 水 区 域	簡易水道を除く枚方市全域										
計 画 給 水 人 口	165,000人										
計 画 1 人 1 日 最 大 給 水 量	360ℓ /人/日										
計 画 1 日 最 大 給 水 量	59,400m ³ /日										
総 事 業 費	1,438,160千円										
水 源 の 種 類	淀川表流水、浅井戸(天野川の伏流水)										
<p>昭和30年から昭和36年の7年間に公団住宅のほとんどが完成しましたが、その後も府営住宅、民間の集合住宅などの建設が行われ、また、新国道1号(枚方バイパス)工事も着手されることになりました。完成後の住宅開発あるいは工業地帯としての発展を考慮すると、現施設では、能力不足が予測されたため、施設の充実を目的に、第3次拡張事業を樹立しました。</p> <p>なお、津田及び長尾簡易水道を廃止して上水道に統合しました。</p> <p>主たる施設</p> <table border="0"> <tr> <td>磯 島 取 水 場</td> <td>導水管PCφ1,500mm×169m、制水井2基、沈砂池2池 取水口2基</td> </tr> <tr> <td>岡 新 町 浄 水 場</td> <td>浄水池1池、急速凝集沈殿池1池</td> </tr> <tr> <td>中 宮 浄 水 場</td> <td>急速ろ過池6池、浄水池2池、急速凝集沈殿池2池、 混和池1池、吸水井、塩素混和池、中央管理棟3階</td> </tr> <tr> <td>田 口 山 配 水 場</td> <td>丸型配水池(容量5,000m³1池)、ポンプ室</td> </tr> <tr> <td>妙 見 山 配 水 池</td> <td>丸型配水池(容量1,500m³1池)</td> </tr> </table>		磯 島 取 水 場	導水管PCφ1,500mm×169m、制水井2基、沈砂池2池 取水口2基	岡 新 町 浄 水 場	浄水池1池、急速凝集沈殿池1池	中 宮 浄 水 場	急速ろ過池6池、浄水池2池、急速凝集沈殿池2池、 混和池1池、吸水井、塩素混和池、中央管理棟3階	田 口 山 配 水 場	丸型配水池(容量5,000m ³ 1池)、ポンプ室	妙 見 山 配 水 池	丸型配水池(容量1,500m ³ 1池)
磯 島 取 水 場	導水管PCφ1,500mm×169m、制水井2基、沈砂池2池 取水口2基										
岡 新 町 浄 水 場	浄水池1池、急速凝集沈殿池1池										
中 宮 浄 水 場	急速ろ過池6池、浄水池2池、急速凝集沈殿池2池、 混和池1池、吸水井、塩素混和池、中央管理棟3階										
田 口 山 配 水 場	丸型配水池(容量5,000m ³ 1池)、ポンプ室										
妙 見 山 配 水 池	丸型配水池(容量1,500m ³ 1池)										

(5) 第4次拡張事業

計 画 期 間	昭和42年4月～昭和47年3月(5ヵ年)																
通 水 開 始 年 月 日	昭和43年4月(一部)																
計 画 給 水 区 域	枚方市全域																
計 画 給 水 人 口	222,500人																
計 画 1 人 1 日 最 大 給 水 量	4000 /人/日																
計 画 1 日 最 大 給 水 量	89,000m ³ /日																
総 事 業 費	2,351,920千円																
水 源 の 種 類	淀川表流水																
<p>昭和43年から行われた大阪府の公社住宅、家具団地、京阪楠葉ローズタウンなどの建設による人口増加や工業の発展等によって、現有能力では水需要の増加に対処することが難しくなったため昭和46年度の完成を目指して第4次拡張事業を行うことになりました。</p> <p>なお、第4次拡張事業に当たり、尊延寺地区の簡易水道を廃止して、上水道に統合しました。</p> <p>主たる施設</p> <table border="0"> <tr> <td>中 宮 浄 水 場</td> <td>急速沈殿池1池、急速ろ過池4池、浄水池1池</td> </tr> <tr> <td>妙 見 山 配 水 池</td> <td>丸型配水池(容量 1,500m³1池・5,000m³1池)</td> </tr> <tr> <td>鷹 塚 山 配 水 池</td> <td>角型配水池(容量 6,000m³1池)</td> </tr> <tr> <td>田 口 山 配 水 場</td> <td>丸型配水池(容量 5,000m³2池)</td> </tr> <tr> <td>尊 延 寺 配 水 場</td> <td>角型配水池(容量 900m³1池)</td> </tr> <tr> <td>穂 谷 配 水 池</td> <td>角型配水池(容量 100m³1池)</td> </tr> <tr> <td>東 部 長 尾 配 水 場</td> <td>角型配水池(容量 4,200m³1池)</td> </tr> <tr> <td>北 部 長 尾 配 水 池</td> <td>丸型配水池(容量 3,000m³1池)</td> </tr> </table>		中 宮 浄 水 場	急速沈殿池1池、急速ろ過池4池、浄水池1池	妙 見 山 配 水 池	丸型配水池(容量 1,500m ³ 1池・5,000m ³ 1池)	鷹 塚 山 配 水 池	角型配水池(容量 6,000m ³ 1池)	田 口 山 配 水 場	丸型配水池(容量 5,000m ³ 2池)	尊 延 寺 配 水 場	角型配水池(容量 900m ³ 1池)	穂 谷 配 水 池	角型配水池(容量 100m ³ 1池)	東 部 長 尾 配 水 場	角型配水池(容量 4,200m ³ 1池)	北 部 長 尾 配 水 池	丸型配水池(容量 3,000m ³ 1池)
中 宮 浄 水 場	急速沈殿池1池、急速ろ過池4池、浄水池1池																
妙 見 山 配 水 池	丸型配水池(容量 1,500m ³ 1池・5,000m ³ 1池)																
鷹 塚 山 配 水 池	角型配水池(容量 6,000m ³ 1池)																
田 口 山 配 水 場	丸型配水池(容量 5,000m ³ 2池)																
尊 延 寺 配 水 場	角型配水池(容量 900m ³ 1池)																
穂 谷 配 水 池	角型配水池(容量 100m ³ 1池)																
東 部 長 尾 配 水 場	角型配水池(容量 4,200m ³ 1池)																
北 部 長 尾 配 水 池	丸型配水池(容量 3,000m ³ 1池)																

(6) 第5次拡張事業

計 画 期 間	昭和46年4月～昭和51年3月(5ヵ年)
通 水 開 始 年 月 日	昭和47年8月(一部)
計 画 給 水 区 域	枚方市全域
計 画 給 水 人 口	315,000人
計 画 1 人 1 日 最 大 給 水 量	400ℓ /人/日
計 画 1 日 最 大 給 水 量	126,000m ³ /日(自己水120,000m ³ 、府水6,000m ³)
総 事 業 費	3,894,180千円
水 源 の 種 類	淀川表流水、府営水道(受水)
<p>経済の高度成長と大都市周辺の衛星都市への人口流入は、第4次拡張事業の完成を待たずして、水不足を危惧させることになり、第4次拡張事業の半ばにして、第5次拡張事業を樹立し事業の完遂に努めました。</p> <p>主たる施設</p> <p>中 宮 浄 水 場 フロック形成池2池、薬品沈殿池(横流部2池、傾斜板部2池)、急速ろ過池3池、洗浄水槽、浄水池1池、着水井、急速混和池、薬品注入室、洗浄排水池2池、汚泥池2池、1・2次濃縮槽、汚泥ポンプ室、汚泥脱水機一式</p> <p>大 池 配 水 場 丸型配水池(容量 6,000m³1池)</p> <p>楠 葉 配 水 場 丸型配水池(容量 3,400m³・1,500m³各1池)、 高架水槽(容量 50m³・1池)</p> <p>東 香 里 高 架 水 槽 高架水槽(容量 20m³・1池・受水槽 50m³・1池)</p>	

(7) 第6次拡張事業

計 画 期 間	昭和52年4月～昭和57年3月(5ヵ年)
通 水 開 始 年 月 日	昭和52年4月(一部)
計 画 給 水 区 域	枚方市全域
計 画 給 水 人 口	366,670人
計 画 1 人 1 日 最 大 給 水 量	432ℓ/人/日
計 画 1 日 最 大 給 水 量	158,300m ³ /日(自己水127,400m ³ 、府水30,900m ³)
総 事 業 費	7,822,476千円
水 源 の 種 類	淀川表流水、府営水道(受水)
<p>相次ぐ拡張事業により、人口増加及び生活様式の多様化に伴う水需要に対処してきましたが、人口の増加は一時期に比べ勢いが鈍化したとはいえ、なお続いていました。</p> <p>将来の水需要を考慮すると、現有能力では安全かつ豊富な水を市民に供給することは困難であると考えられました。そこで、これらの諸事情を解消するために、主に府営水道受水施設及びそれに伴う送配水施設の拡充を中心とした第6次拡張事業を樹立しました。</p> <p>主たる施設</p> <p>中 宮 浄 水 場 管理棟増築、電気計装設備</p> <p>春 日 受 水 場 角型受水池(12,000m³ 2池・6,000m³ 1池)、送水ポンプ4台、ポンプ棟1棟</p> <p>津 田 低 区 配 水 場 角型配水池(容量7,500m³ 1池)</p>	

(8) 第7次拡張事業

計 画 期 間	昭和57年4月～平成3年3月(9ヵ年) 変更(昭和57年4月～平成16年3月(22ヵ年))
通 水 開 始 年 月 日	平成9年8月(一部)
計 画 給 水 区 域	枚方市全域
計 画 給 水 人 口	419,000人
計 画 1 人 1 日 最 大 給 水 量	494ℓ/人/日
計 画 1 日 最 大 給 水 量	206,800m ³ /日(自己水127,400m ³ 、府水79,400m ³)
総 事 業 費	40,118,000千円
水 源 の 種 類	淀川表流水、府営水道(受水)
<p>人口の増加は一時期に比べ鈍化しているものの、微増傾向にありました。また、水源水質においては、全般的には改善の傾向にあるものの、早期に大幅な改善は期待できない状況でした。このような状況の中で、より高いサービス水準を目指し、円滑な給水サービスを図るため、高度浄水施設の導入と送配水施設の拡充整備を行うために、フレッシュ水道計画や大阪府広域的水道整備計画との整合性を図り、目標年度を平成15年度とし、浄水処理方法の変更を中心に計画給水人口 419,000人、計画1日最大給水量 206,800m³とする第7次拡張事業の変更を行いました。</p> <p>主たる施設</p> <p>磯 島 取 水 場 沈砂池2池、管理棟1棟、流量調整室、吸水井、取水ポンプ8台、導水管</p> <p>津 田 低 区 配 水 場 角型配水池(容量 7,500m³1池)、ポンプ棟</p> <p>変更後の主な事業</p> <p>高 度 浄 水 施 設 着水井、オゾン接触池、粒状活性炭吸着池、塩素接触池、浄水池</p> <p>連 絡 施 設 連絡管渠、ポンプ設備</p> <p>香 里 受 水 場 ポンプ設備、送水管</p> <p>長 尾 宮 前 配 水 場 配水池(容量 3,500m³ 内側1,730m³ 外側1,770m³)</p> <p>新 穂 谷 配 水 場 配水池(容量 1,500m³ 1池)、送水管</p> <p>水 室 低 区 配 水 場 配水池(容量 3,300m³1池)、ポンプ室、次亜塩注入設備 送水管</p>	

5. 送水ルートへのバックアップ機能の強化

老朽化した中宮浄水場から田口山配水場の送水管に代わる新たなルートの整備に取り組み、平成21年度から工事に着手し、平成24年度に完成しました。

送水管口径：φ900mm 延長：約3,500m

6. 春日受水場更新工事

大規模災害に備え安定的に水を供給するため、基幹施設の一つである春日受水場において、平成23年度から更新工事に着手しています。

7. 施設改良工事

第7次拡張事業までの水道事業は、施設整備の拡大・拡張を中心とした事業でしたが、それ以降は、これまで整備した施設、管路の維持管理、更新・改良及び耐震化など、持続的にお客さまに良質で安全な水を安定的に供給するための事業が重要な課題であり、順次取り組みを行っています。また、環境への負荷を小さくする省力化など、環境保全に係る取り組みを推進しています。

区 分	主な施設改良事業
平成16年度	北山配水場：自然エネルギー活用施設整備事業（太陽光発電装置設置） 中宮浄水場：第2沈殿池制御盤更新工事、防藻設備設置工事 磯島取水場：ポンプ更新工事
平成17年度	北部長尾配水池：耐震補強工事、流量計更新工事 中宮浄水場：高架水槽揚水ポンプ盤更新工事、テレメータ更新工事
平成18年度	東部長尾配水場：受変電設備更新工事、配水池耐震補強工事 中宮浄水場：テレメータ更新工事、蓄電池設備更新工事
平成19年度	東部長尾配水場：配水池耐震補強工事 中宮浄水場：テレメータ更新工事、洗浄管更新工事 磯島取水場：現場操作盤更新工事
平成20年度	中宮浄水場：テレメータ更新工事、洗浄管更新工事 磯島取水場：現場操作盤更新工事 田口山配水場：無停電電源装置更新工事
平成21年度	中宮浄水場：2系コントローラ更新工事、ろ過池塩素水洗浄設備設置工事 高度浄水施設：活性炭吸着池次亜塩素素注入制御改良工事 東部長尾配水場：送水ポンプ配管及び送水流量計更新工事
平成22年度	中宮浄水場：1系コントローラ更新工事 田口山配水場：緊急遮断弁設置及び1号池整備工事 楠葉配水場：電気計装更新工事

区 分	主な施設改良事業
平成 23 年 度	中宮浄水場：2系原水コントロール弁 津田低区配水場：シーケンサ更新工事 東部長尾配水場：電気設備増設及び更新工事
平成 24 年 度	中宮浄水場：水質計器更新工事 大池配水場：直送加圧ポンプ棟築造及びポンプ設備更新 田口山配水場：電気計装設備更新

8. 鉛管改良工事

水道部では、昭和 62 年以前までは、主として配水管から道路止水栓及びメーターまでの給水管に、鉛管を使用してきましたが、腐食による漏水の防止と鉛溶出対策として使用材料の見直しを行い、昭和 63 年 4 月 1 日から耐久性及び経済性に優れている耐衝撃性硬質塩化ビニル管 (HIVP) を採用し、順次入れ替えています。

また、鉛濃度の一層の低減を推進するため、平成 5 年度から未塗装異形管の改良工事に付随して鉛管の解消事業を実施するとともに、公共下水道等による移設工事においても、移設対象外の区域も含めて鉛管を解消しています。さらに、平成 16 年度からは鉛管解消事業として、計画的な取り組みも進めています。

(工事等で既設鉛管をビニル管に入れ替えた件数)

区 分	給水替工事	修繕工事	請負工事	計
平成 17 年度まで	14,589	7,620	36,897	59,106
平成 18 年度	313	505	1,897	2,715
平成 19 年度	327	484	1,368	2,179
平成 20 年度	296	381	2,008	2,685
平成 21 年度	185	345	2,035	2,565
平成 22 年度	68	326	2,050	2,444
平成 23 年度	47	298	1,501	1,846
平成 24 年度	127	257	1,453	1,837
計	15,952	10,216	49,209	75,377

- ・ 給水替工事：増築、改築に伴う道路止水栓及び水道メーターまでの布設替工事
- ・ 修繕工事：破損事故等の修繕工事による入替工事
- ・ 請負工事：老朽管改良工事及び下水道布設に伴う水道移設工事による入替工事

9. 異形管改良工事

昭和 54 年以前に埋設した鑄鉄管は、内面に簡易な塗装しか施されていないため、年数

が経過すると管内面の腐食が進行し、出水不良・赤水発生の原因となっています。

水道部は、昭和 42 年度から昭和 58 年度までの間に管内面のライニング工事を実施し、直管部分については、100%腐食防止を完了しています。

しかし、曲管等の異形管部分については、当時の技術では施工が困難であったため実施していません。これらの対策として、口径 75 mm・100 mmの異形管改良を、平成 5 年度から年次計画により実施しています。

また、老朽化による漏水事故が懸念されることから、平成 16 年度からは配水管更新事業として、直管部分も含めた改良工事に取り組んでいます。

平成 24 年度末での事業実績は下表のとおりです。

計画延長 約170,000m (改良工事 約94,000m 移設工事 約76,000m)				
区 分	改 良 工 事	移 設 工 事 等	計	残 延 長
平成 17 年度まで	35,408	57,534	92,942	77,058
平成 18 年度	3,573	1,007	4,580	72,478
平成 19 年度	4,094	858	4,952	67,526
平成 20 年度	9,387	645	10,032	57,491
平成 21 年度	3,589	1,332	4,921	52,573
平成 22 年度	3,479	875	4,354	48,219
平成 23 年度	3,631	123	3,754	44,465
平成 24 年度	2,438	646	3,084	41,381
計	65,599	63,020	128,619	